

「てるてる坊主と下駄占い」

【第17回】てるてる坊主と下駄占い

～航空気象群ホームページのコラム「気象の杜」～をご覧くださいありがとうございます。今回は、鳥取県境港市にある美保気象隊からお届けします。

皆さんは、明日の天気が気になるときにどうしていますか？今でこそ科学技術が発達し、頻繁にテレビやラジオのほか各種情報ツールで気象情報が入手できると思います。しかしながらこのような情報があったとしても明日は晴れてほしい、来週こそ雨が降ってほしい等の願い事があるのではないのでしょうか。そこで、てるてる坊主と下駄占いにスポットをあててみたいと思います。

てるてる坊主の由来は様々な説があるようですが、始まりは古代中国の箒（ほうき）を手にした切り紙の人形を飾ったものが日本に伝わり、江戸時代中期には既に飾られていたようで、日本国語大辞典によると、江戸時代の文献では「てり雛・てり法師・てりてり坊主・てるてる・てるてる法師・てるてる坊主・てれてれ法師」など、地域によりさまざまに呼ばれていたようです。今のてるてる坊主は日本の風習の一つで、小学国語読本 巻二の挿絵には、翌日の晴天を願い、白い布か紙で作った人形を枝に吊しているようすが描かれています。美保気象隊にも「アマテラスちゃん」と名付けられた、てるてる坊主があり航空祭前など大きな行事には晴天と安全を願っています。

また、明日の天気といえば下駄(近年では靴が主流)飛ばし占いが有名だと思います。私も幼少期に「あ～した天気になあ～れ」と言って靴を蹴り飛ばして靴の向きにより天気を占ったことがあります。この下駄(靴)飛ばし占いも、子供の遊びから広まった説や雨乞いなどの神事に使われていたものが民間に広がった説など諸説あり、明日は「晴れてほしい」や「作物の育成のために雨が降ってほしい」などと願いを込めて天気を予想したものだったようです。そのため、履物が表を向くと「晴れの天気」、横を向くと「くもりの天気」、裏を向くと「雨や雪の天気」というものが多いようで、地域により様々な予想法がありそうですね。ちなみに美保気象隊が所在する鳥取県境港市では、ゲゲゲの鬼太郎ゲタ飛ばし大会も開催されていますので、明日の天気に思いを馳せながら飛ばしてみてもいいかもしれません。ただし、飛ばす時は、周辺の安全を確かめて、「人やものに当たらない」ように注意してくださいね。以上、美保気象隊のマスコット「アマテラスちゃん」がお送りしました。



【参考文献】

国立国会図書館デジタル化資料より

「小学国語読本 巻2」(昭和8・1933年)